

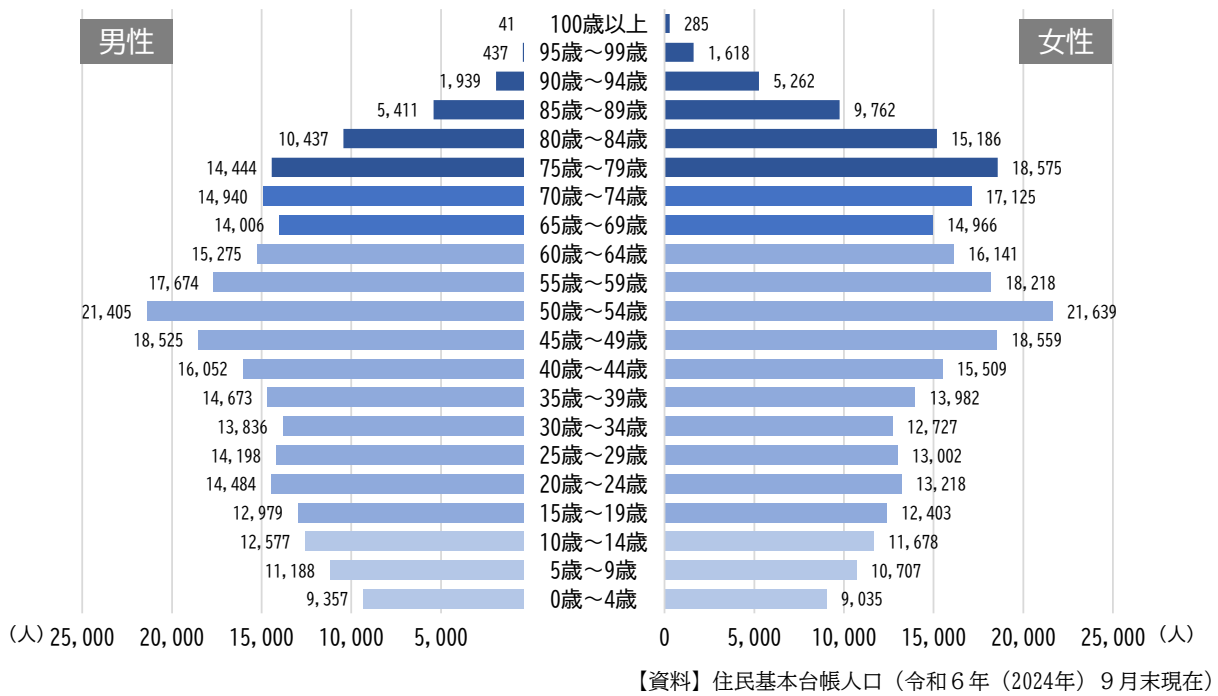
第2章 本市のスポーツの現状と課題

1 本市のスポーツを取り巻く環境

(1) 人口構造

本市の人口ピラミッドでは、下記のように50～54歳人口が最も多くなっています。

《人口ピラミッド》

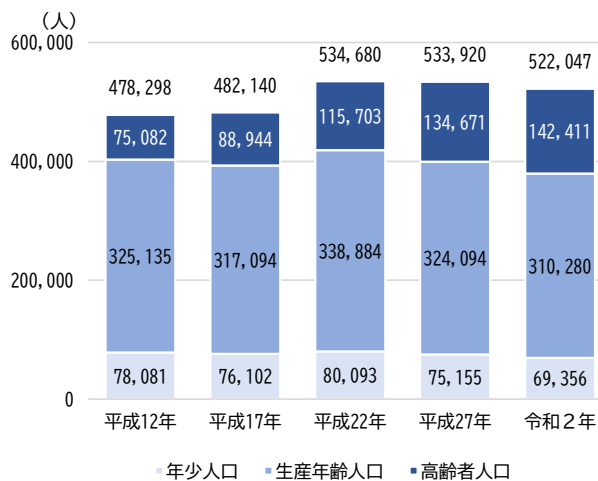


(2) 人口の推移

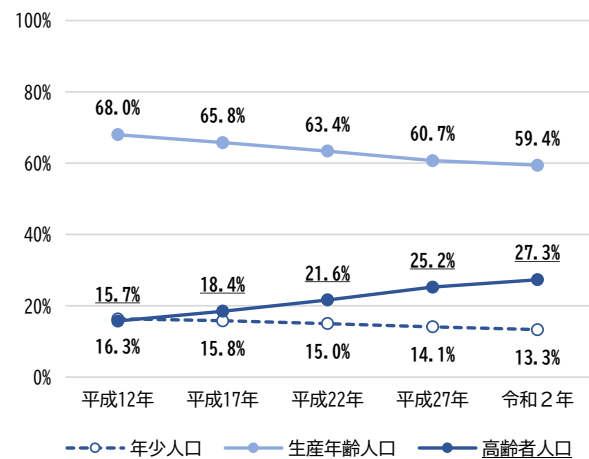
本市の人口は、平成22年（2010年）以降、減少傾向で推移しています。

年齢区分別では、年少人口、生産年齢人口は減少傾向となっているのに対し、高齢者人口は増加傾向となっています。

《年齢区分別人口の推移》



《年齢区分別人口構成比の推移》



【資料】国勢調査（各年10月1日現在）

※総数には「年齢不詳」を含むため、年齢別人口の合計値と一致しない。

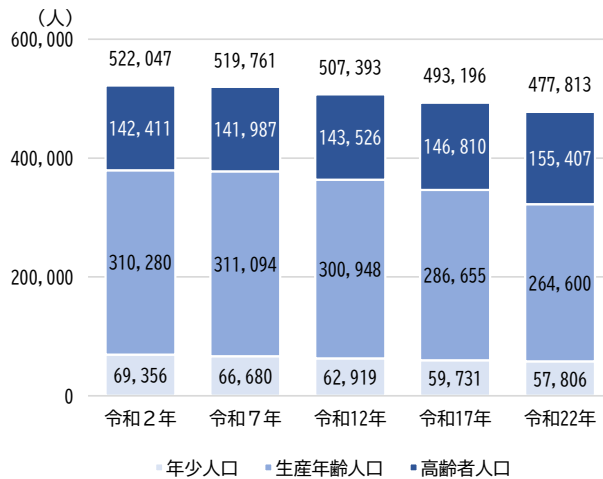
※年少人口…15歳未満の人口、生産年齢人口…15～64歳の人口、高齢者人口…65歳以上の人口

(3) 人口推計

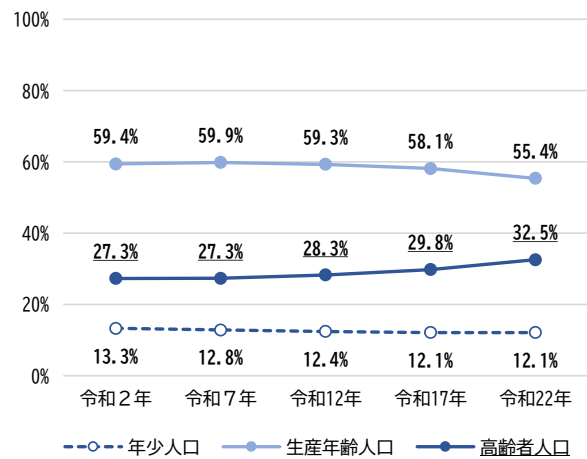
本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」によると、令和2年（2020年）以降、減少傾向となっています。

年齢区分別でみると、年少人口、生産年齢人口は減少傾向となっているのに対し、高齢者人口は増加傾向となっており、令和22年（2040年）には高齢者人口が32.5%と人口の3割を超えるものと推計されています。

《年齢区分別人口の推計》



《年齢区分別人口構成比の推計》



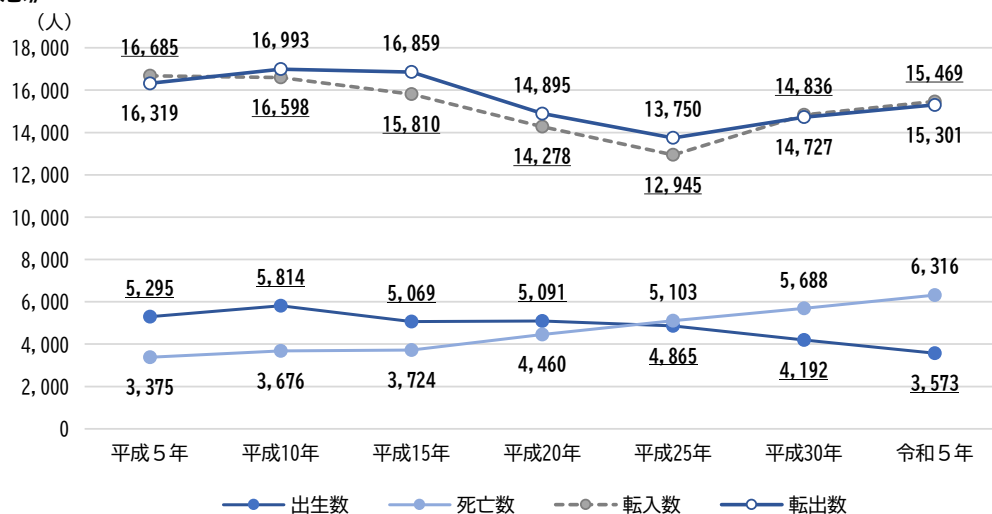
【資料】令和2年：国勢調査

令和7年～：国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018）年推計）」

(4) 人口動態

人口動態をみると、自然動態では平成30年（2018年）以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」となっており、その差が大きくなっています。社会動態では平成30年（2018年）以降、転入数が転出数をやや上回っており、「社会増」となっています。

《人口動態》



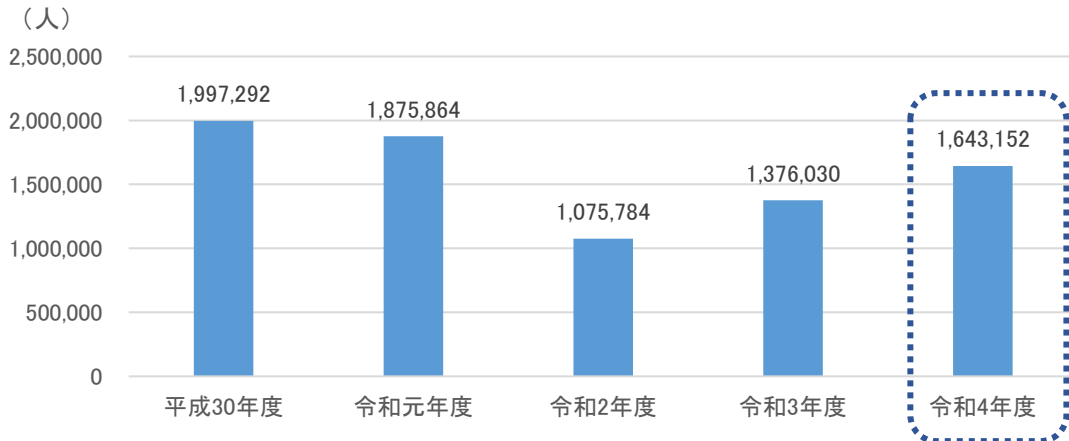
【資料】姫路市統計要覧

(5) スポーツ施設の利用状況

スポーツ施設の利用状況については、令和2年度（2020年度）に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、利用者数が大きく減少しました。その後、回復傾向ではあるものの、コロナ禍前の利用者数には至っていない状況です。

令和4年度（2022年度）の利用者数を施設別で見ると、兵庫県立武道館、総合スポーツ会館、ヴィクトリーナ・ウインク体育館の利用が多くなっています。

《スポーツ施設の利用状況》



《市内スポーツ施設別の利用者数（令和4年度）》

スポーツ施設	利用者数	スポーツ施設	利用者数		
総合スポーツ会館	210,047	香寺総合公園スポーツセンター	124,489		
ヴィクトリーナ・ウインク体育館	159,923	安富スポーツセンター	14,376		
球技スポーツセンター	89,042	家島B&G海洋センター	6,669		
ウインク陸上競技場	77,213	安富B&G海洋センター	3,055		
香寺温水プール	67,228	テニスコート	田寺	36,938	
飾磨体育館	22,482		網干	13,394	
花北体育館	37,183		広畑	35,792	
野球場	ウインク		39,302	書写	8,359
	中島	10,648	兵庫県立武道館	351,926	
	広畑	16,153	広畑トレーニングルーム	13,631	
	林田	4,185	広畑体育館	26,327	
	灘浜	12,188	ゴルフ場	姫路シーサイドゴルフコース	56,668
	白浜	6,753		青山ゴルフ場	46,210
	白浜新開	22,931		旭国際姫路ゴルフ倶楽部	42,951
	豊富	24,373	家島運動広場	5,435	
坊勢スポーツセンター	19,393	坊勢運動広場	240		
夢前スポーツセンター	36,648	合計	1,642,152		

【資料】姫路市統計要覧

2 第1期計画の振り返り

第1期計画期間（平成27年度～令和6年度）における本市の取組を、「施策の方向性」ごとに振り返ります。

[第1期計画の体系]

基本理念

誰もが気軽にスポーツに関わりを持てる、 生涯スポーツ社会の実現

本市は、地域スポーツ振興事業（旧生活体育振興事業）をはじめ、学校体育施設の一般開放や市民センター併設体育館の充実など、他都市に比べ、恵まれたスポーツ環境にあります。さらなる利便性の向上、効率的な運用により、既存ストックの有効活用を図り、市民の満足度の向上につなげていく必要があります。

このため、『誰もが気軽にスポーツに関わりを持てる、生涯スポーツ社会の実現』を基本理念として、恵まれた環境を最大限に活用し、全ての市民が生涯にわたっていきいきとスポーツに親しみ、スポーツを通じて「こころ」の豊かさと「からだ」の健康を実感できる「姫路型」の生涯スポーツ社会の実現をめざします。

基本目標

基本方針

● 施策の方向性

基本目標

1 健康な生活を支えるスポーツ環境の整備

【基本方針】

- 1-1 体育施設の有効活用・改修
- 1-2 生涯スポーツを支える人材の育成・活用
- 1-3 スポーツ情報の発信

2 スポーツ振興事業の展開

【基本方針】

- 2-1 ライフステージに応じたスポーツの推進
- 2-2 地域スポーツの活性化
- 2-3 競技スポーツの推進
- 2-4 スポーツによる地域経済の活性化

基本目標1 健康な生活を支えるスポーツ環境の整備

基本方針 1-1 体育施設の有効活用・改修

●体育施設の有効活用

- ▶ 指定管理者制度を導入済みの20施設に対して指導、監査及び指定管理者の更新を行うとともに、家島B&G海洋センターやスケートボードパーク等5施設に指定管理者制度を導入しました。
- ▶ 民間体育施設一般開放事業として、民間が所有する体育館を借り受け、市民利用に供しました。
- ▶ 指定管理者制度を導入した施設に、公共施設予約システム及びオンライン決済を導入しました。また、総合スポーツ会館にキャッシュレス券売機を設置しました。
- ▶ 夜間利用の需要に応え、施設利用の平準化を図るため、ウイंक球場にナイター照明を設置しました。

●体育施設の改修整備

- ▶ 香寺温水プールや家島B&G海洋センターの大規模改修を行いました。また、各体育館照明のLED化や手すりの設置、トイレの洋式化を進めています。
- ▶ 手柄山新スポーツ施設の整備にあたっては、隣接するJR新駅との交通アクセスに配慮するとともに、ヴィクトリーナ・ウイंक体育館との相互連携を図り、多様なニーズに対応できる本市スポーツの拠点に相応しい施設整備を進めています。

基本方針 1-2 生涯スポーツを支える人材の育成・活用

●生涯スポーツを支える人材の育成

- ▶ 指導者養成講習会を毎年2回以上開催し、ボッチャやモルック等のユニバーサルスポーツの講習を取り入れました。
- ▶ 市民スポーツ大学講座を毎年開催し、スポーツ活動におけるハラスメント問題や感染症予防対策、中学校部活動の地域移行などのテーマを取り上げました。
- ▶ スポーツメディカル事業として、医療従事者等による講演会や実技講習会を開催しました。

●生涯スポーツを支える人材の有効活用

- ▶ 企業や大学と連携を図るとともに、トップチームの指導者や選手を招へいしたスポーツ教室等を開催しました。

基本方針 1-3 スポーツ情報の発信

●スポーツの実施促進に向けた情報発信

- ▶ スポーツ賞や、永年指導者の表彰式を毎年開催し、本市出身のアスリートや地域スポーツの指導者を称え、市民に披露しました。
- ▶ 姫路市スポーツクラブ21協議会の事務局として、地域スポーツの振興を図るため、毎年グラウンド・ゴルフやバドミントン大会等の情報を発信しました。

●スポーツに関わるきっかけづくりのための情報発信

- ▶ 市の広報誌やホームページにおいて、スポーツ体験講習会や市民歩こう会等の周知及び募集を行いました。
- ▶ 平成29年度(2017年度)にひめじスポーツコミッション(スポーツを地域活性化に活かす組織)を設立し、スポーツイベント等の情報を発信しました。

基本目標2 スポーツ振興事業の展開

基本方針 2-1 ライフステージに応じたスポーツの推進

●子どものスポーツの推進

- ▶ 小・中学生を対象に、サッカーや卓球、体操等のトップアスリートスポーツ教室を開催しました。
- ▶ 小学生を対象に、1年を通して様々なスポーツ体験ができる「スポーツ探検隊」を実施しました。
- ▶ 指定管理者と連携し、バレーボールやバトントワーリング等のスポーツ体験会を実施しました。

●成人のスポーツの推進

- ▶ 運動不足の大人でも参加しやすい軽めの運動として、市民歩こう会を年6回、市民体力テスト会を年2回開催しました。
- ▶ 働き盛りの世代や子育て世代の運動機会として、スポーツ推進委員会主催の「男性ソフトボールのつどい」、「女性バレーボールのつどい」等の全市交流事業を毎年実施しました。

●高齢者のスポーツの推進

- ▶ 満60歳以上の市民を対象に、高齢者スポーツ大会を毎年開催しました。
- ▶ 生涯現役地域活動助成事業(健康増進事業)として、校区老人クラブ等が主体となって実施する高齢者の健康づくりに寄与する活動に対し、活動経費の一部助成を行いました。
- ▶ 各地域包括支援センターにおいて、いきいき百歳体操を毎年実施しました。

●障害者スポーツの推進

- ▶ 市民スポーツ大学講座において、パラリンピアンによる講演など、障害者スポーツを取り入れました。
- ▶ シットティングバレーボール全日本女子チームへ練習場所や備品の提供などを行いました。
- ▶ 「Doスポーツデー」(指定管理者自主事業)として車椅子バスケットボールやシットティングバレーボール等の体験イベントを実施しました。
- ▶ ハード面では、スポーツ施設における手すりの設置やトイレの洋式化を順次行いました。手柄山新スポーツ施設の整備にあたっては、ユニバーサルデザインを採用し、誰もが利用しやすい施設づくりを進めています。
- ▶ 市内在住又は市内の障害福祉サービス事業所を利用している障害者等を対象に、障害者ジョイフルスポーツフェア及び障害者スポーツ競技会(ボッチャリーグひめじ)を開催しました。
- ▶ 障害者が所属している市内の事業所、団体(任意団体含む。)等を対象に、障害者スポーツ体験推進事業を実施しました。

●生涯スポーツの推進

- ▶ 生涯現役ガンバルンバ体操&サプライズ健康教室を毎年約20回開催しました。
- ▶ 姫路市スポーツ祭等の本市主催イベントに、心身状況にかかわらず気軽に始められるユニバーサルスポーツを取り入れました。
- ▶ 正しい治療やリハビリ、けがの予防についての知識を深めるため、医療関係者やアスリートによる講演会やシンポジウム等を開催しました。

基本方針 2-2 地域スポーツの活性化

●地域に根ざしたスポーツの振興

- ▶ 身近で気軽に参加できる地域スポーツの場として、小・中学校の体育施設の開放事業を実施しました。
- ▶ 全小学校区のウォーキングマップを平成 28 年度（2016 年度）に更新し、市ホームページに公開しました。

●スポーツクラブ 21 の活性化

- ▶ 姫路市スポーツクラブ 21 協議会の事務局として、バドミントンやペタンク、グラウンド・ゴルフ等の種目において全市大会を開催しました。
- ▶ ブロック交流大会への助成を通じてクラブの活動支援を行いました。

基本方針 2-3 競技スポーツの推進

●競技力向上に向けた環境づくり

- ▶ ジュニア層の競技力向上のため、トップチームやオリンピック等のアスリートによるスポーツ教室や講演会を開催しました。
- ▶ 大会で優秀な成績を収めた選手や指導者を対象として、スポーツ表彰やスポーツ協会表彰を実施しました。また、全国大会等の出場者に激励金を交付しました。

●競技スポーツ支援のための環境づくり

- ▶ 競技基準に適合するよう、ウインク陸上競技場を改修しました。ヴィクトリーナ・ウインク体育館では、トップスポーツに対応した LED 照明等を導入しました。
- ▶ 本市をホームタウンとするトップチームに対し、練習場所の環境整備や、ホームゲームの開催支援、チームの PR 等を実施しました。
- ▶ ウインク球場に、プロ野球公式戦の開催が可能なナイター照明設備を設置するとともに、スコアボードを改修しました。

基本方針 2-4 スポーツによる地域経済の活性化

●大規模大会の開催推進

- ▶ 全国大会等の主催者に対し、スポーツイベント開催補助金を交付しました。
- ▶ ひめじスポーツコミッションにおいて、大会誘致や開催支援を図りました。

●スポーツツーリズムの推進

- ▶ 東京 2020 オリンピック競技大会に際して、フランス柔道選手団の事前合宿を受け入れるとともに、交流事業として「姫路フランス祭」を開催しました。
- ▶ 世界遺産姫路城マラソンを開催しました。また、ラグビーワールドカップ 2023 やパリ 2024 オリンピック競技大会等のパブリックビューイングを実施しました。
- ▶ バレーボールネーションズリーグ 2024 に際して、バレーボール女子フランス代表選手団の事前合宿を受け入れ、バレーボール教室等の交流事業を実施しました。
- ▶ 主催イベント以外に、元日本代表選手による「宝くじスポーツフェア ドリームサッカー in 姫路」や、「プロ野球フレッシュオールスターゲーム 2024」等を誘致しました。

3 スポーツの実施状況・スポーツに関する意識（アンケート調査の結果）

本計画の策定に当たり、スポーツに関する市民の意識やニーズを把握し、計画に反映するとともに、より効果的な施策を立案していくためにアンケート調査を実施しました。

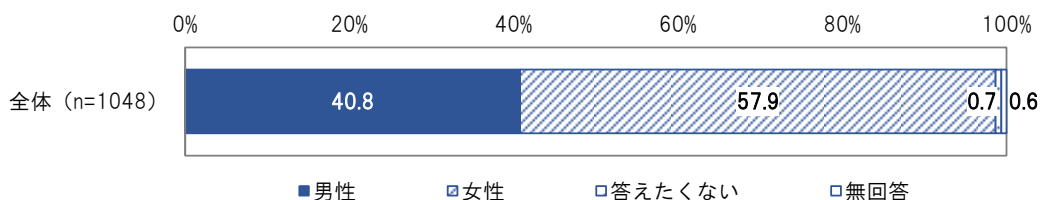
(1) 調査概要

- 調査対象：市内にお住まいの18歳以上の男女3,000人（無作為抽出）
- 調査方法：郵送又はWEB回答
- 調査期間：令和5年（2023年）7月14日～令和5年（2023年）8月18日
- 有効回収数：1,048サンプル（有効回収率 34.9%）
- 注意事項
 - 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示している。
 - 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならないことがある。
 - 「複数回答可能」となっている質問は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
 - 記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

(2) 回答者の属性

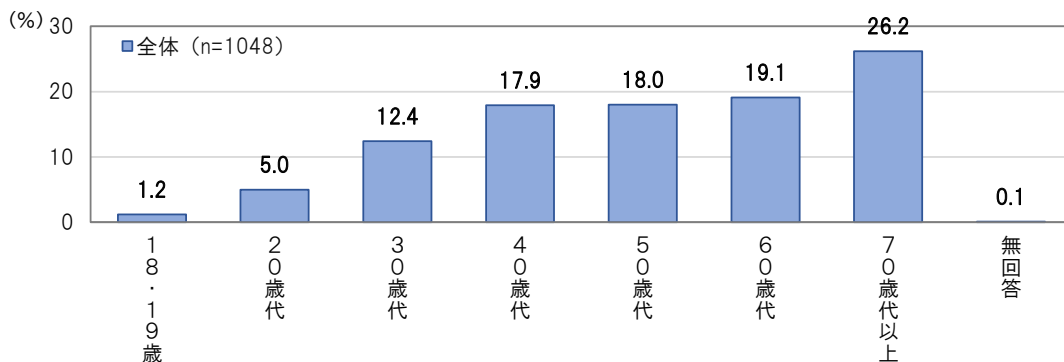
① 性別

性別については、「男性」が約4割、女性が約6割となっています。



② 年代

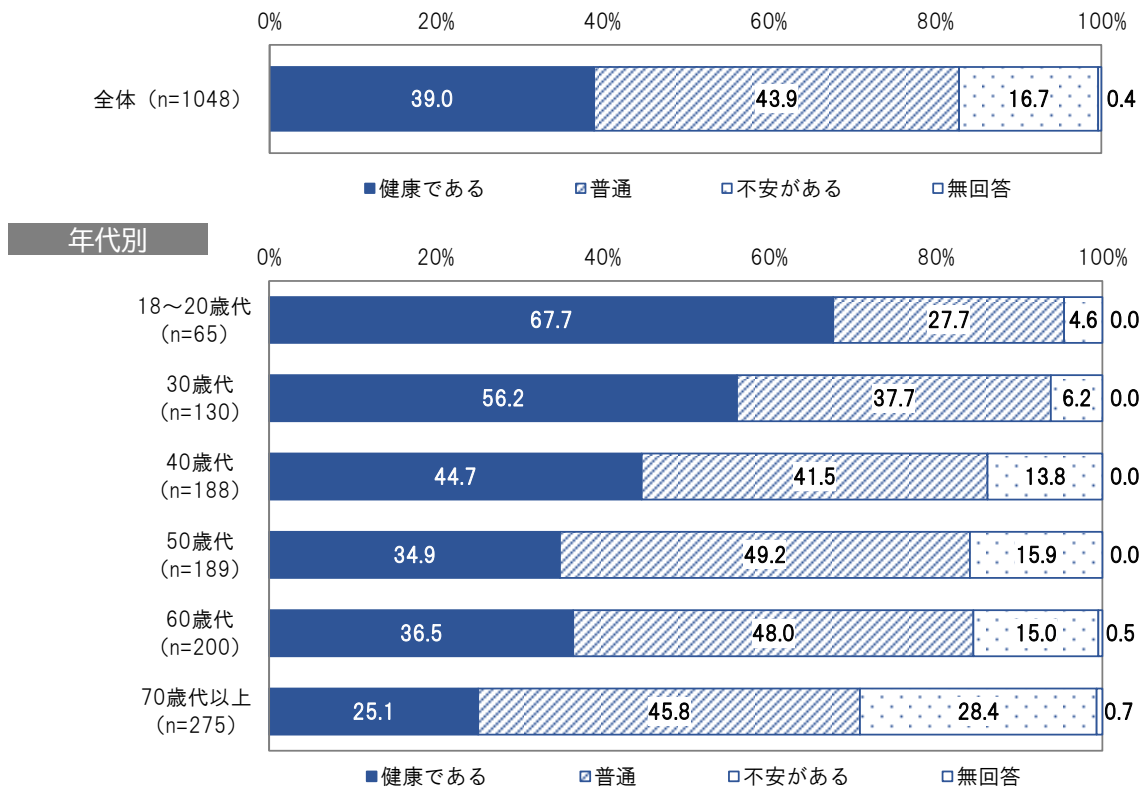
年代については、「70歳代以上」が2割を超えて最も多く、「60歳代」を合わせた『60歳以上』が4割以上を占めています。



(3) 健康状態

健康状態については、「普通」が4割を超えて最も多く、次いで「健康である」が約4割となっています。また、「不安がある」は2割未満となっています。

年代別でみると、おおむね年代が上がるにつれて「健康である」が低くなり、「不安がある」が高くなる傾向がみられ、70歳代以上では「不安がある」が3割近くを占めています。

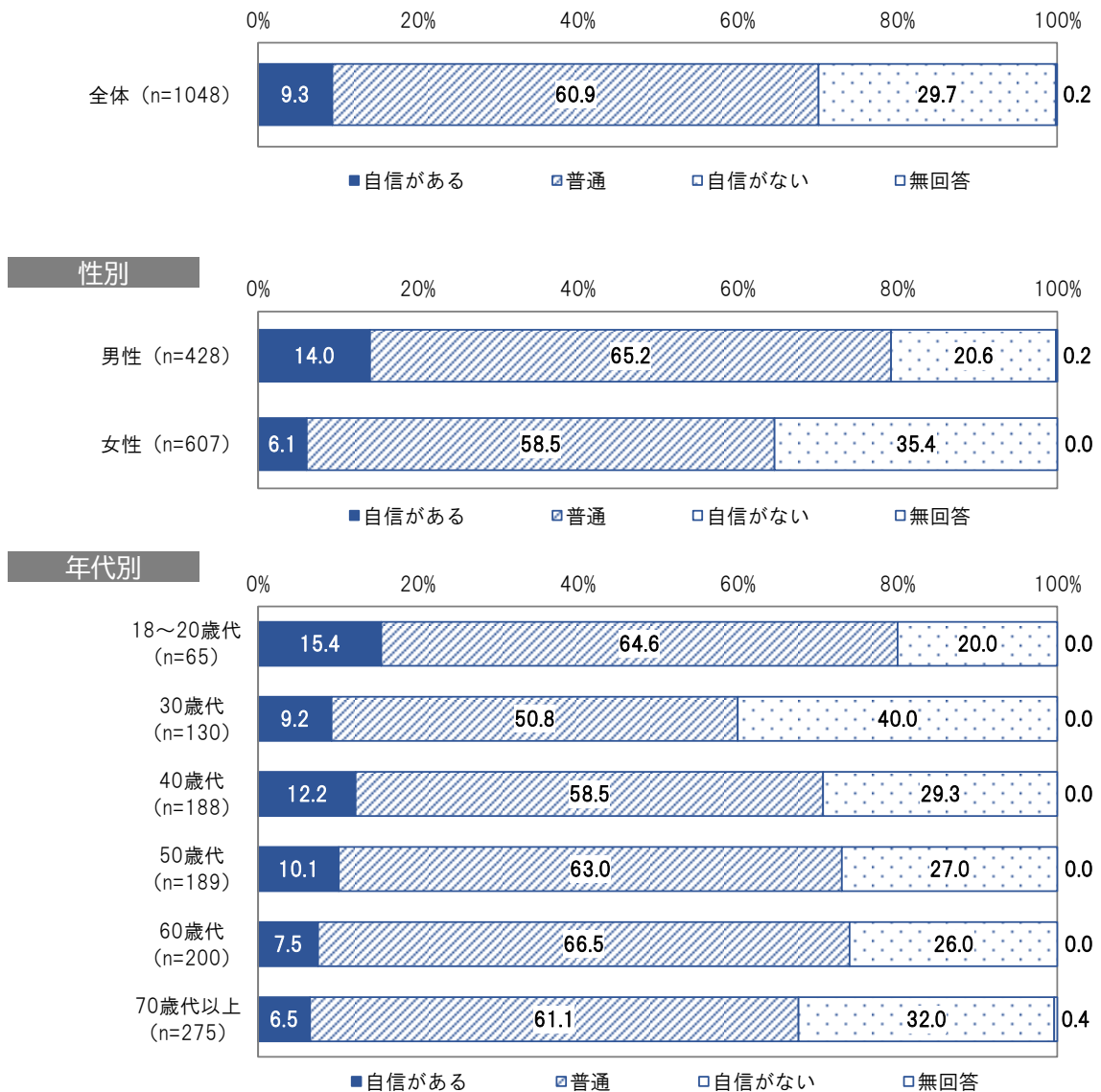


(4) 体力の状況

体力の状況については、「普通」が約6割を占めて最も多くなっています。次いで、「自信がない」が約3割となっており、「自信がある」は約1割となっています。

性別でみると、女性は「自信がない」が3割を超えており、男性に比べて14.8ポイント上回っています。

年代別でみると、おおむね年代が下がるにつれて「自信がある」が高くなる傾向となっています。一方で、「自信がない」は30歳代で4割を占めており、最も高くなっています。

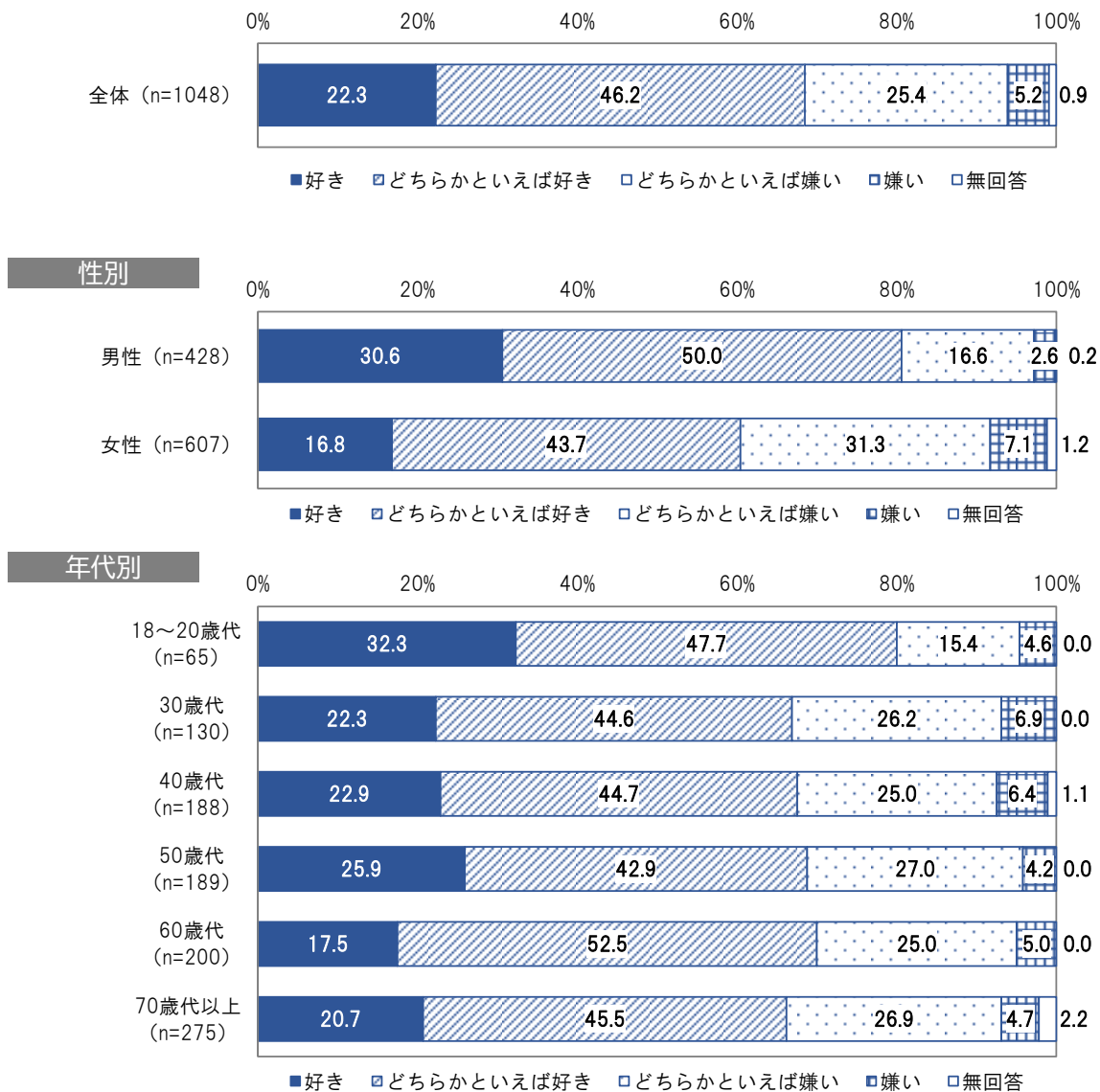


(5) 運動・スポーツの好き嫌い

運動・スポーツの好き嫌いについては、「どちらかといえば好き」が4割を超えて最も多く、「好き」を合わせると、『好き』な人が7割近くを占めています。

性別でみると、男性は『好き』が約8割を占めているのに対し、女性は約6割と低くなっています。

年代別でみると、18～20歳代を除くすべての年代で『好き』が6割程度となっています。

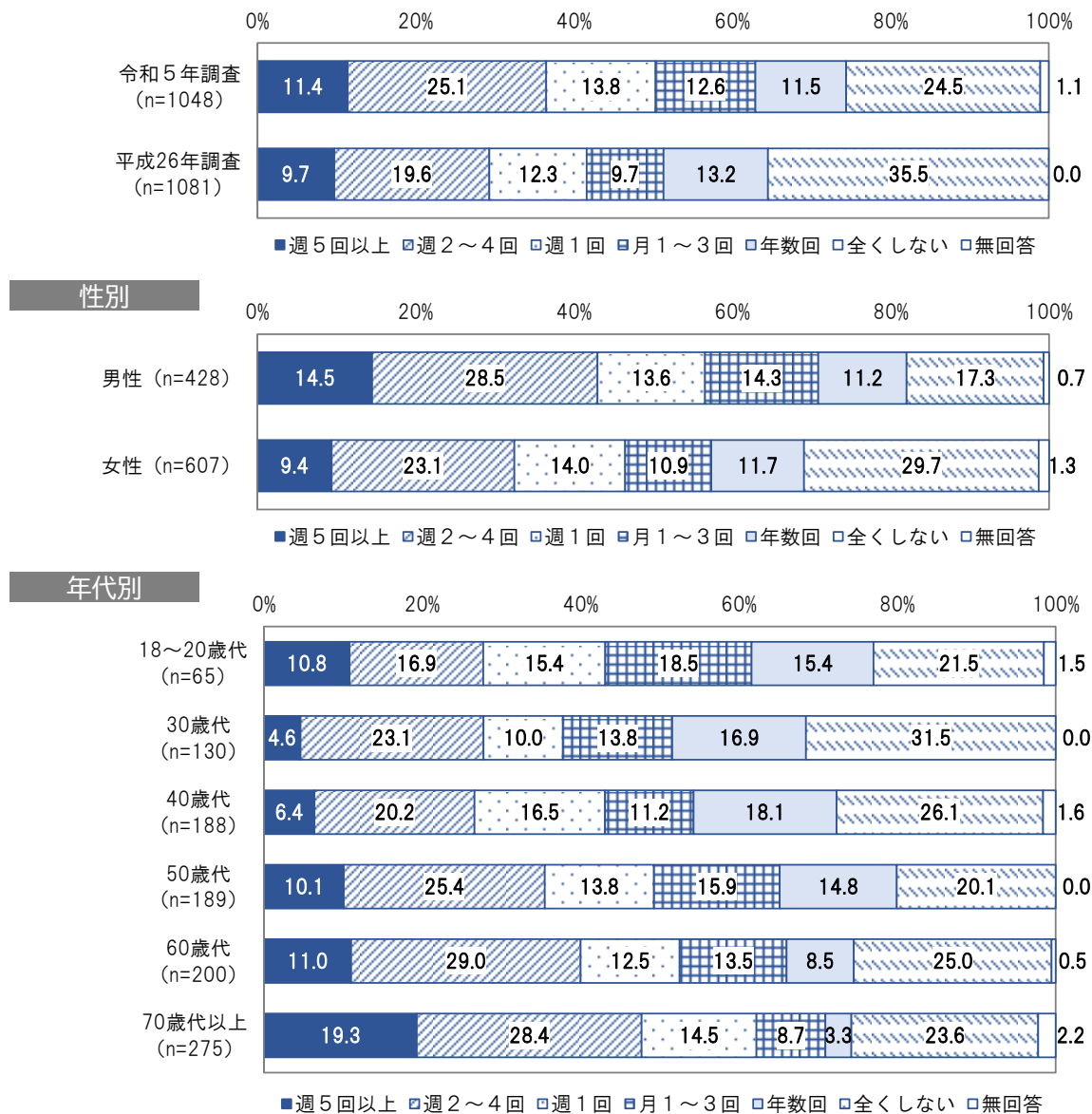


(6) 運動・スポーツの実施頻度

運動・スポーツの実施頻度については、「週2～4回」が2割を超えて最も多く、「週5回以上」、「週1回」と合わせた『週1回以上』が約半数を占めています。平成26年(2014年)調査(41.6%)と比較すると増加しています。

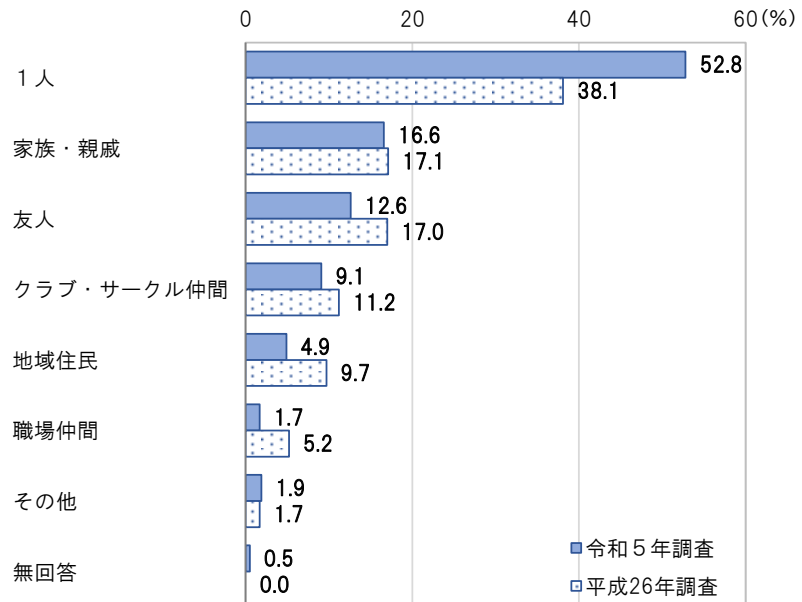
性別でみると、男性は『週1回以上』が56.6%と半数を超えているのに対し、女性は46.5%と約10ポイント下回っています。

年代別でみると、おおむね年代が上がるにつれて実施割合が高くなる傾向がみられ、特に30歳代ではその他の年代に比べて実施割合がやや低くなっています。働き盛りの年齢層で運動習慣がない人が多いことから、仕事や家事・育児と運動・スポーツとの両立が困難となっていることが推測されます。



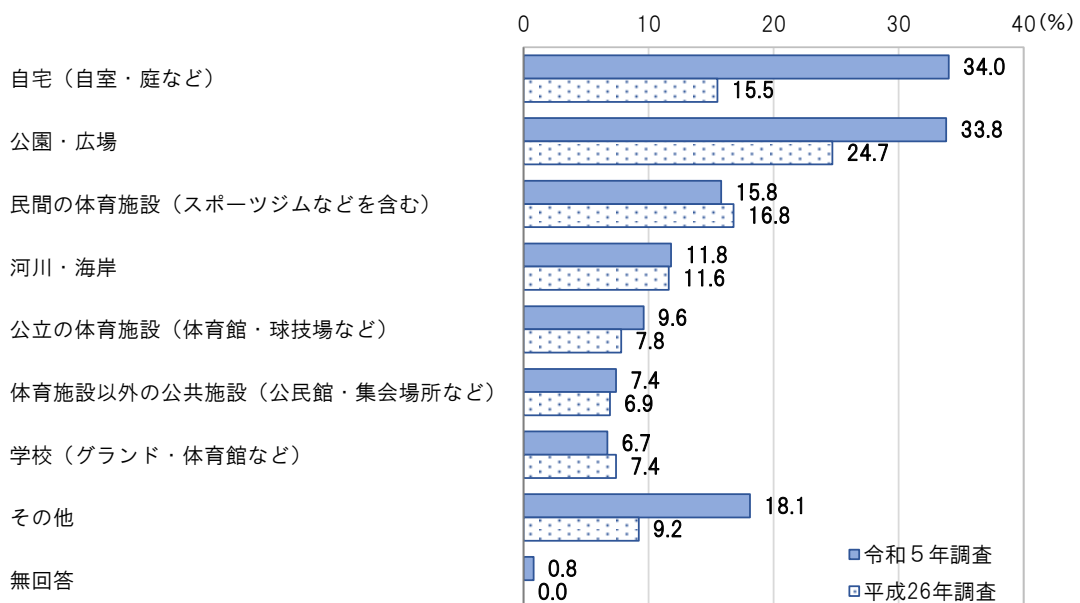
(7) 運動・スポーツを一緒にする人 ※(6)で運動をしていると回答した人のみ

運動・スポーツを一緒にする人については、「1人」が半数を超えて最も多く、次いで「家族・親戚」、「友人」の順となっています。平成26年(2014年)調査と比較すると、「クラブ・サークル仲間」や「地域住民」、「職場仲間」が低くなっているのに対し、「1人」が10ポイント以上高くなっており、グループや団体での運動・スポーツをする人が減っています。



(8) 運動・スポーツを行う場所 ※(6)で運動をしていると回答した人のみ ※複数回答可能

運動・スポーツを行う場所については、「自宅」や「公園・広場」がともに3割を超えて多く、次いで「民間の体育施設」、「河川・海岸」の順となっています。平成26年(2014年)調査と比較すると、「自宅」や「公園・広場」が10ポイント以上高くなっており、身近な場所で運動する人が増えています。

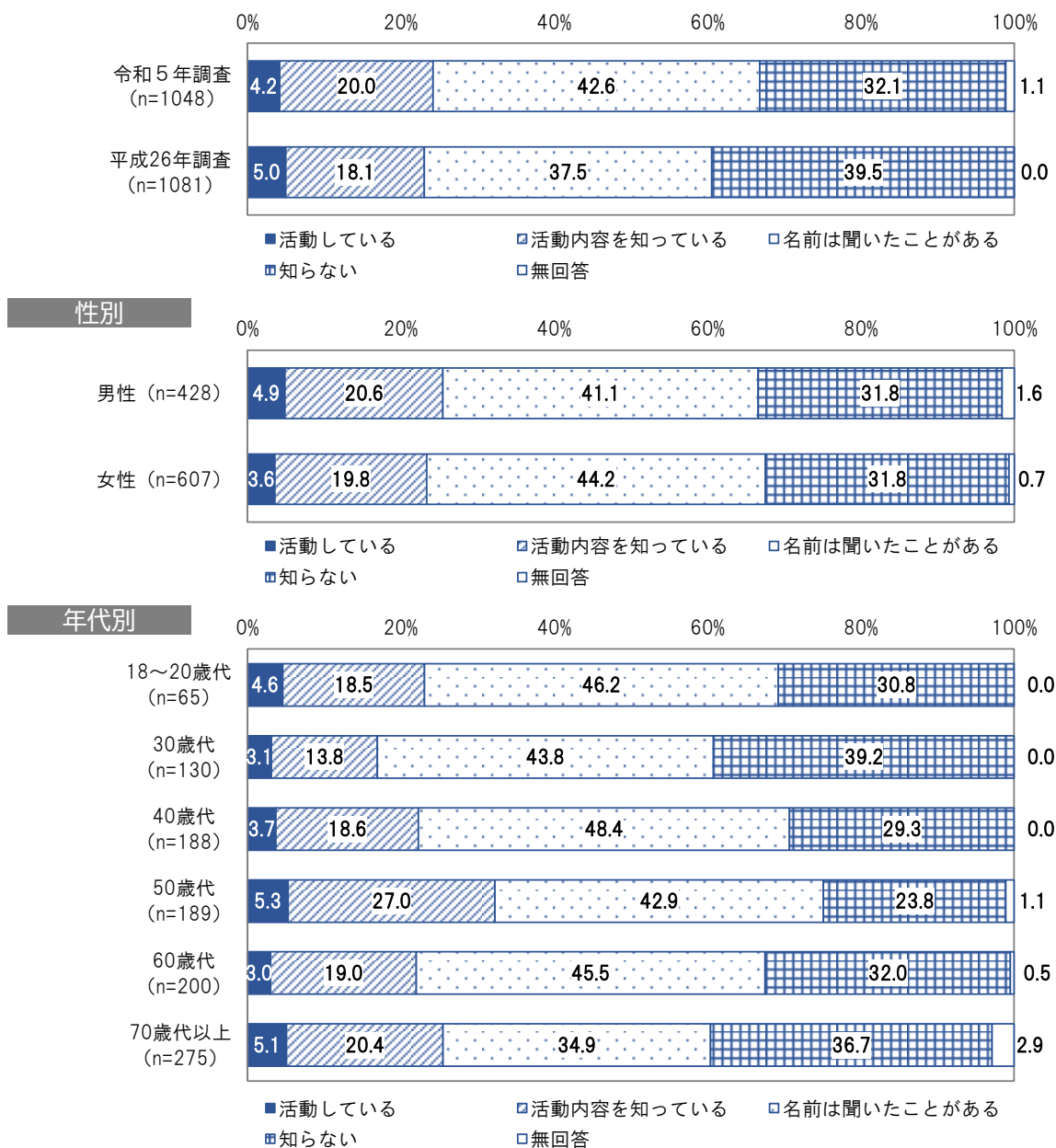


(9) スポーツクラブ21の認知度

スポーツクラブ21の認知度については、「名前は聞いたことがある」が4割を超えて最も多く、「活動している」と「活動内容を知っている」を合わせた『活動内容を知っている』は3割未満となっています。平成26年(2014年)調査と比較すると、「知らない」は減少しているものの、『活動内容を知っている』は同程度となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年代別でみると、50歳代で『活動内容を知っている』が最も高くなっているものの、その他の年代では2割程度となっています。また、「活動している」ではすべての年代で1割未満となっています。

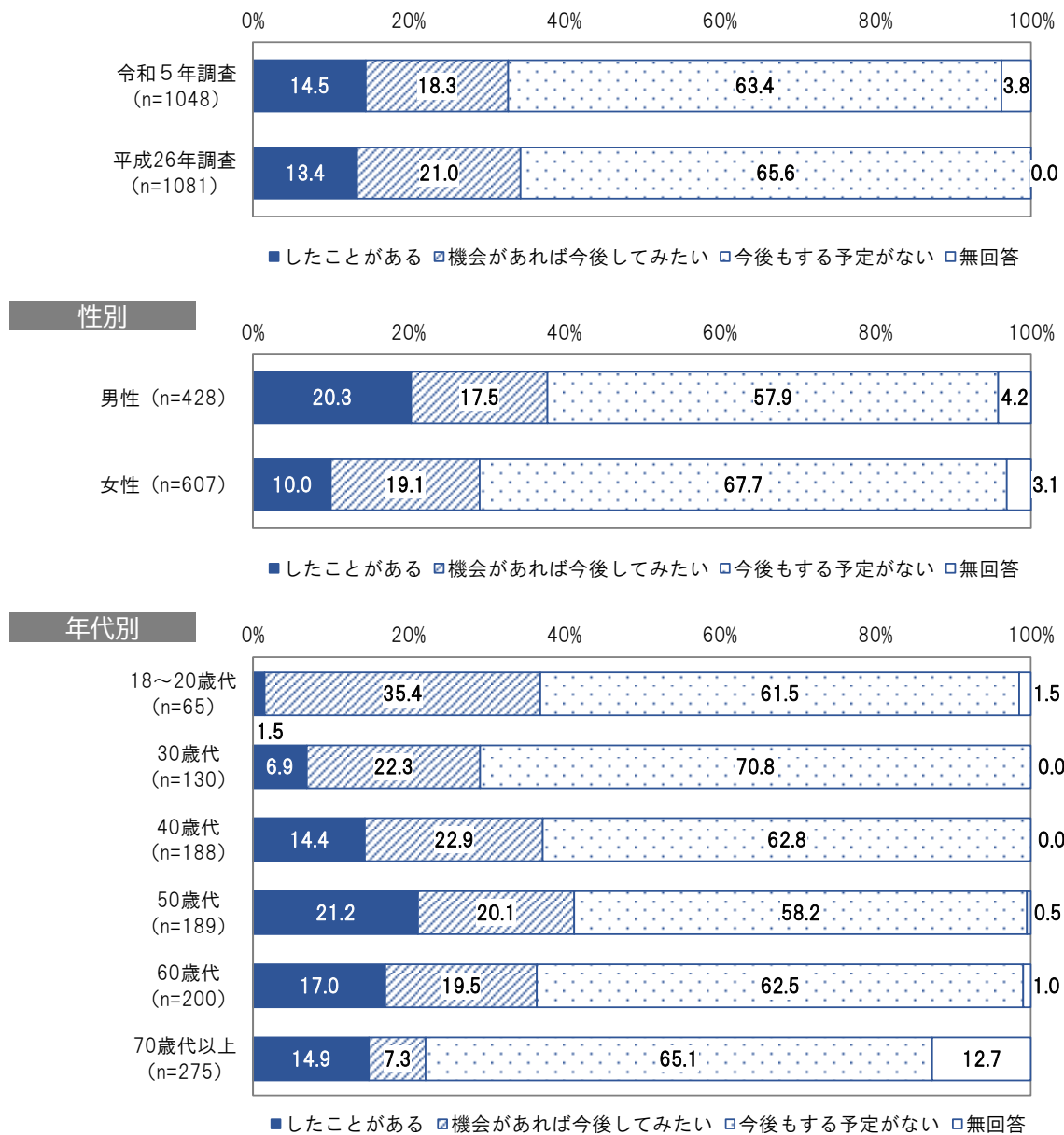


(10) 運動・スポーツに関わるボランティア活動

運動・スポーツに関わるボランティア活動については、「今後もする予定がない」が6割を超えて最も多く、「したことがある」、「機会があれば今後してみたい」がともに2割未満となっています。平成26年（2014年）調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっています。

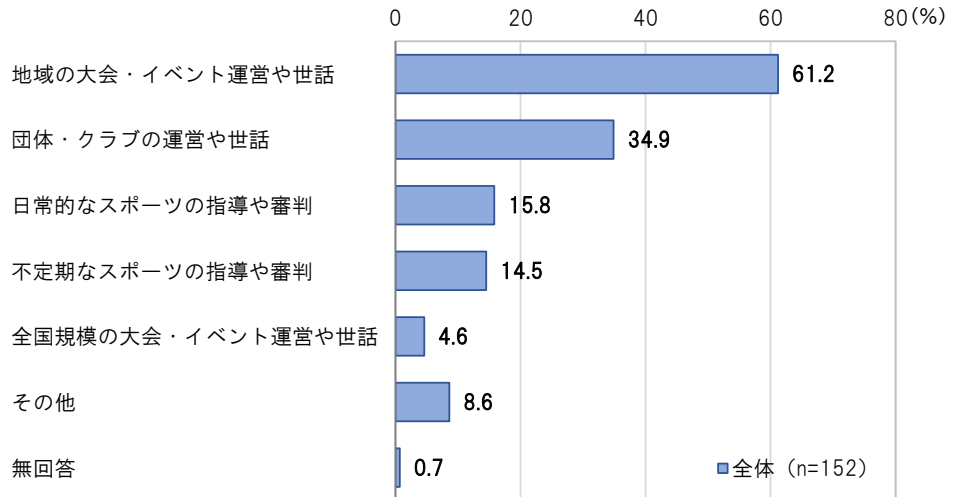
性別でみると、男性では「したことがある」が約2割を占め、女性（約1割）を約10ポイント上回っています。

年代別でみると、「したことがある」では50歳代で2割を超えて最も高くなっているものの、その他の年代では2割未満となっており、特に18～30歳代では1割未満と低くなっています。一方で、年代が下がるにつれて「機会があれば今後してみたい」が高くなっており、特に18～20歳代では3割を超えています。



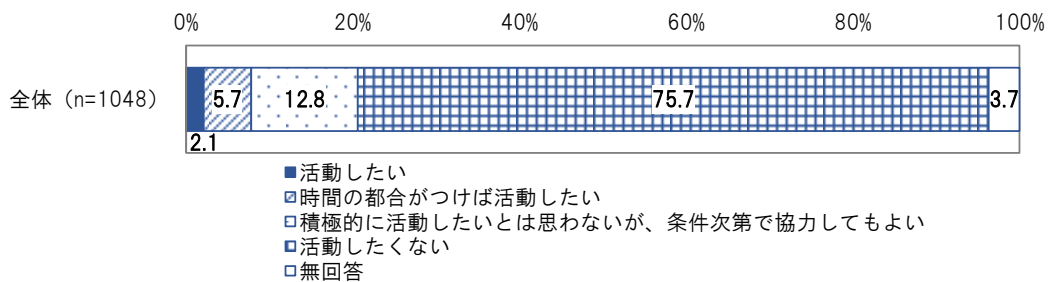
(11) ボランティア活動の内容 ※ (10) で活動をしていると回答した人のみ ※複数回答可能

ボランティア活動の内容については、「地域の大会・イベント運営や世話」が6割を超えて最も多く、次いで「団体・クラブの運営や世話」、「日常的なスポーツの指導や審判」、「不定期なスポーツの指導や審判」の順となっています。



(12) 中学校部活動の指導者としての活動意向

中学校部活動の指導者としての活動意向については、「活動したくない」が7割を超えて多くなっているものの、「活動したい」と「時間の都合がつけば活動したい」、「積極的に活動したいとは思わないが、条件次第で協力してもよい」を合わせた活動意向者は約2割を占めています。

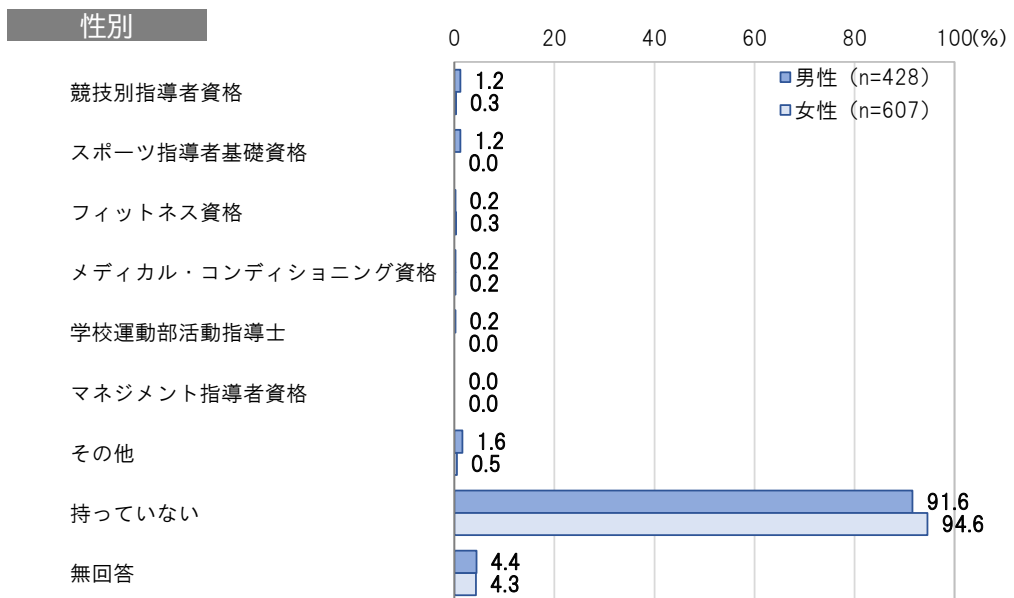
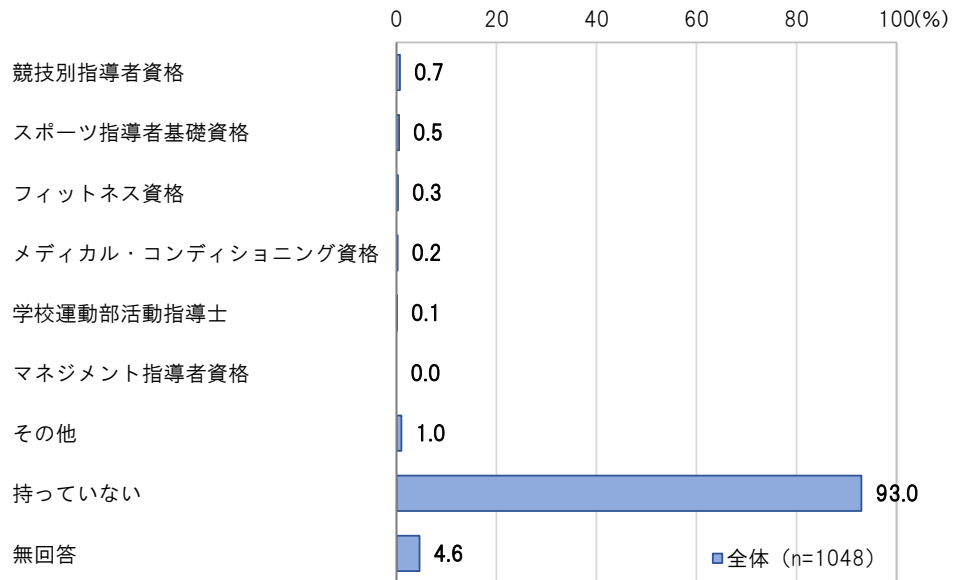


(13) 運動・スポーツの指導者として活動するための資格

※複数回答可能

運動・スポーツの指導者として活動するための資格については、「持っていない」が9割以上を占め、資格を持っている人は1割未満となっています。資格を持っている人では、「競技別指導者資格」が0.7%と高く、次いで「スポーツ指導者基礎資格」(0.5%)となっています。

性別でみると、資格を持っている人の割合は、女性に比べて男性でやや高くなっています。

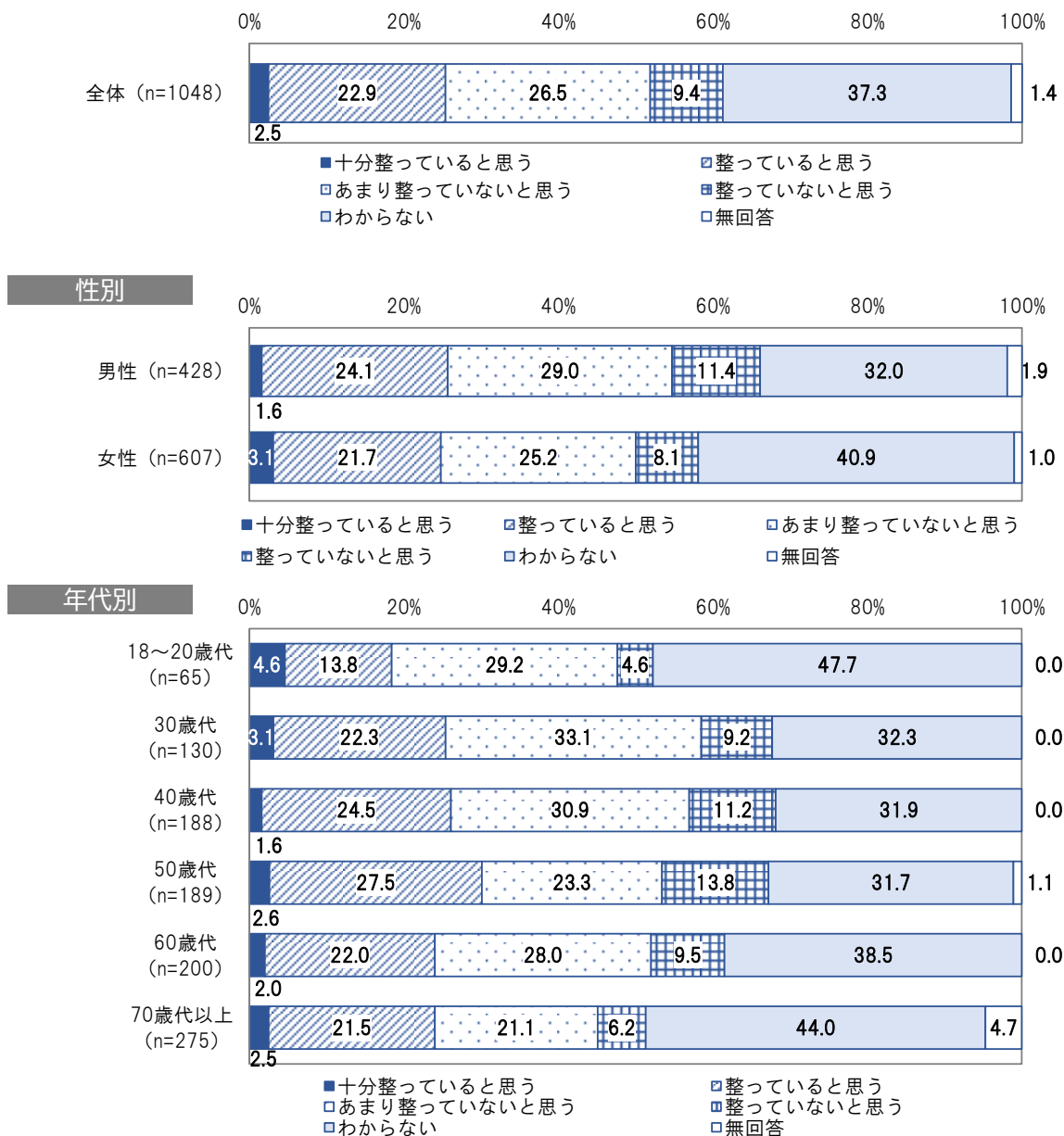


(14) いつでも誰でもスポーツに親しむことができるスポーツ環境に対する評価

いつでも誰でもスポーツに親しむことができるスポーツ環境に対する評価については、「あまり整っていないと思う」と「整っていないと思う」を合わせた『整っていないと思う』が3割を超え、「十分整っていると思う」と「整っていると思う」を合わせた『整っていると思う』を上回っています。

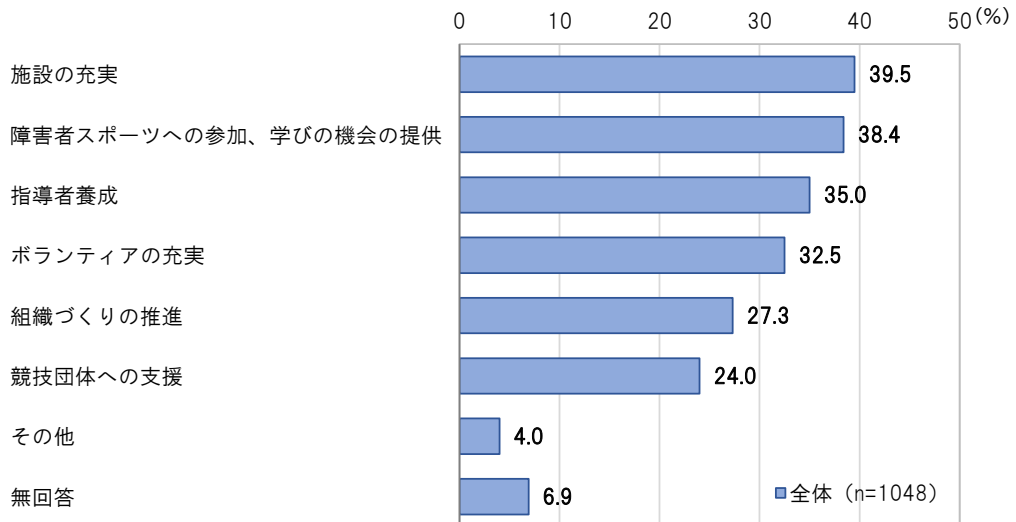
性別でみると、男性では『整っていないと思う』が約4割を占めており、女性に比べてやや高くなっています。

年代別でみると、すべての年代で『整っていないと思う』が『整っていると思う』を上回っており、特に18～40歳代でその差が大きくなっています。



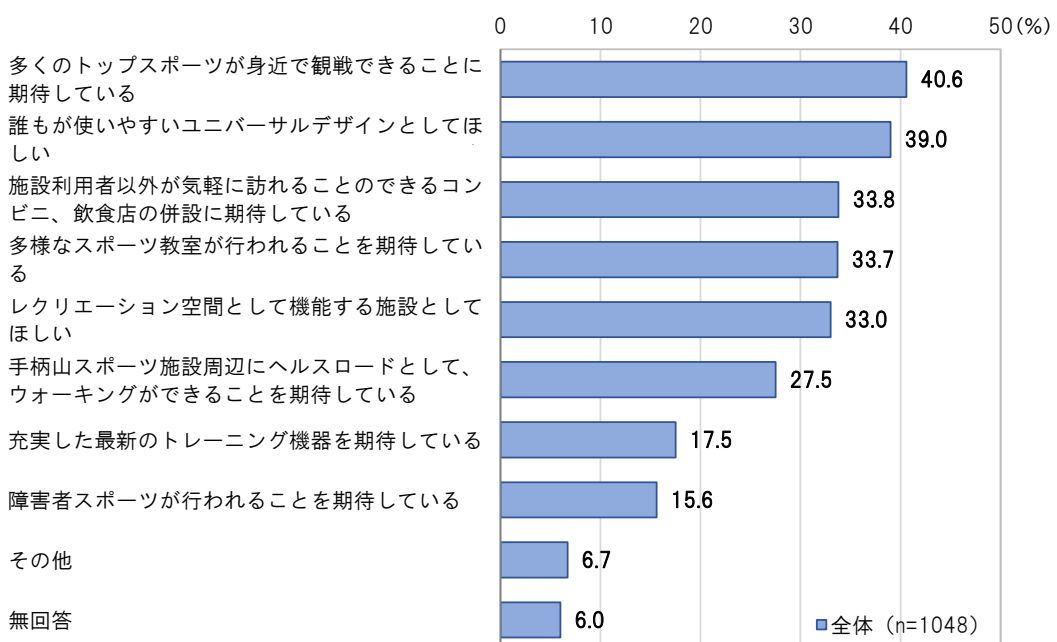
(15) 障害者スポーツの普及・振興のために必要なこと ※複数回答可能

障害者スポーツの普及・振興のために必要なことについては、「施設の充実」と「障害者スポーツへの参加、学びの機会の提供」がともに4割近くを占めており、次いで「指導者養成」、「ボランティアの充実」、「組織づくりの推進」の順となっています。



(16) 新手柄山スポーツ施設に期待すること ※複数回答可能

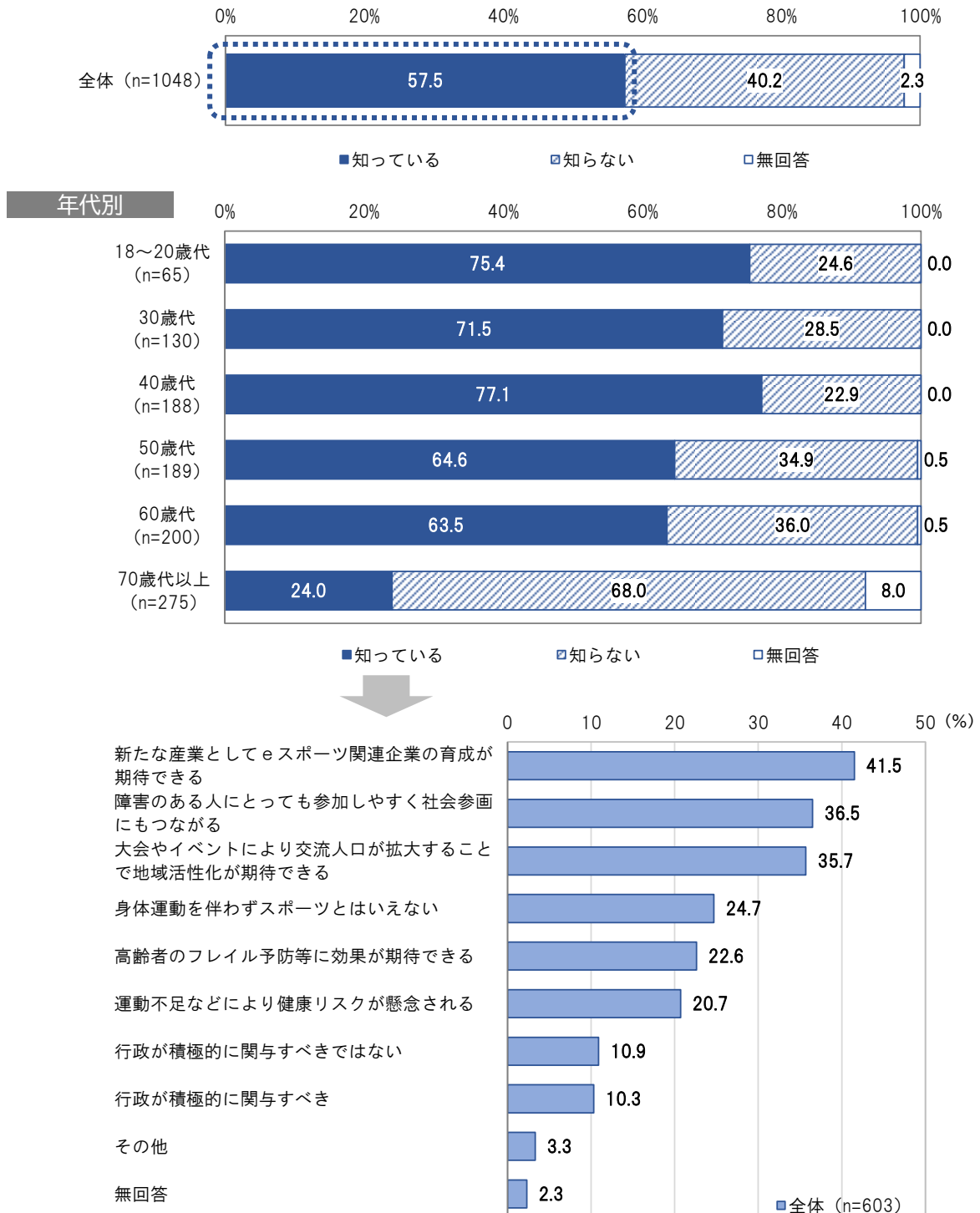
新たな手柄山スポーツ施設に期待することについては、「多くのトップスポーツが身近で観戦できることに期待している」と「誰もが使いやすいユニバーサルデザインとしてほしい」がともに約4割を占めて高く、次いで「施設利用者以外が気軽に訪れることのできるコンビニ、飲食店の併設に期待している」、「多様なスポーツ教室が行われることを期待している」、「レクリエーション空間として機能する施設としてほしい」となっています。



(17) eスポーツの認知度と捉え方 ※「eスポーツの捉え方」は、複数回答可能

eスポーツの認知度については、「知っている」が6割近くを占めており、「知らない」は約4割となっています。年代別で見ると、18～40歳代で「知っている」が7割を超えています。

eスポーツの捉え方については、「新たな産業としてeスポーツ関連企業の育成が期待できる」が4割を超えて最も高く、次いで「障害のある人にとっても参加しやすく社会参画にもつながる」や「大会やイベントにより交流人口が拡大することで地域活性化が期待できる」が3割を超えており、地域の活性化や社会参画への期待が高い結果となっています。

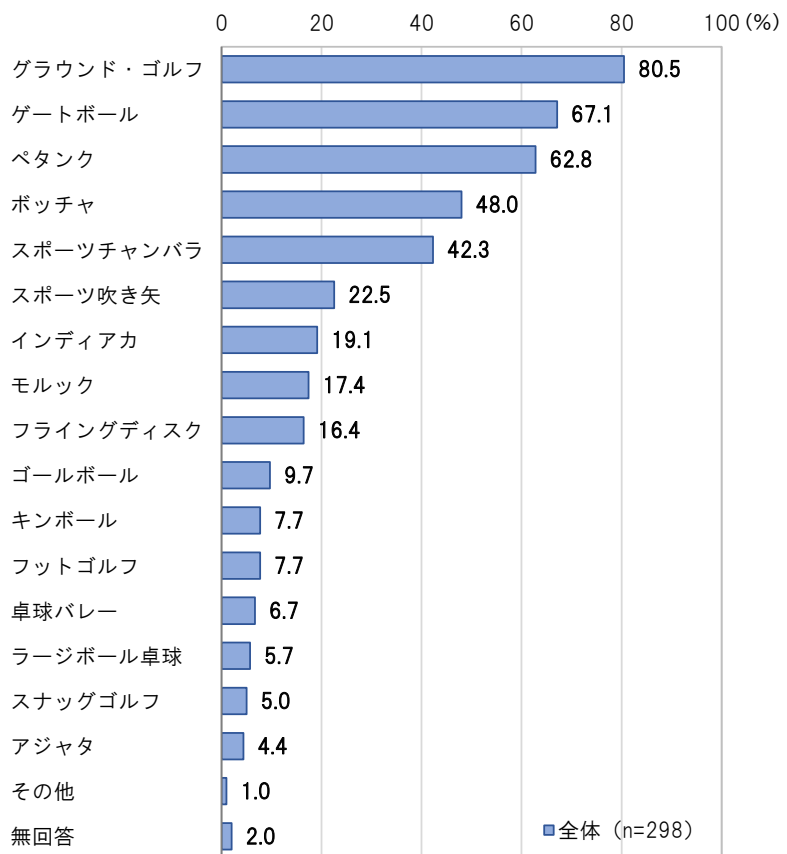
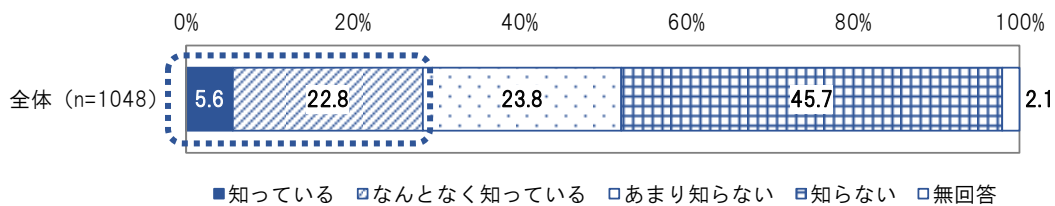


(18) ニュースポーツ・ユニバーサルスポーツの認知度 ※「知っている種目」は、複数回答可能

ニュースポーツ・ユニバーサルスポーツの認知度については、「知らない」が4割を超えて最も多く、「あまり知らない」と合わせると『知らない』が約7割を占めています。

一方で、「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせた『知っている』が3割未満となっています。

知っている種目については、「グラウンド・ゴルフ」が約8割を占めて最も多く、次いで「ゲートボール」、「ペタンク」、「ボッチャ」、「スポーツチャンバラ」の順となっています。それ以外の種目では認知度が3割未満となっています。

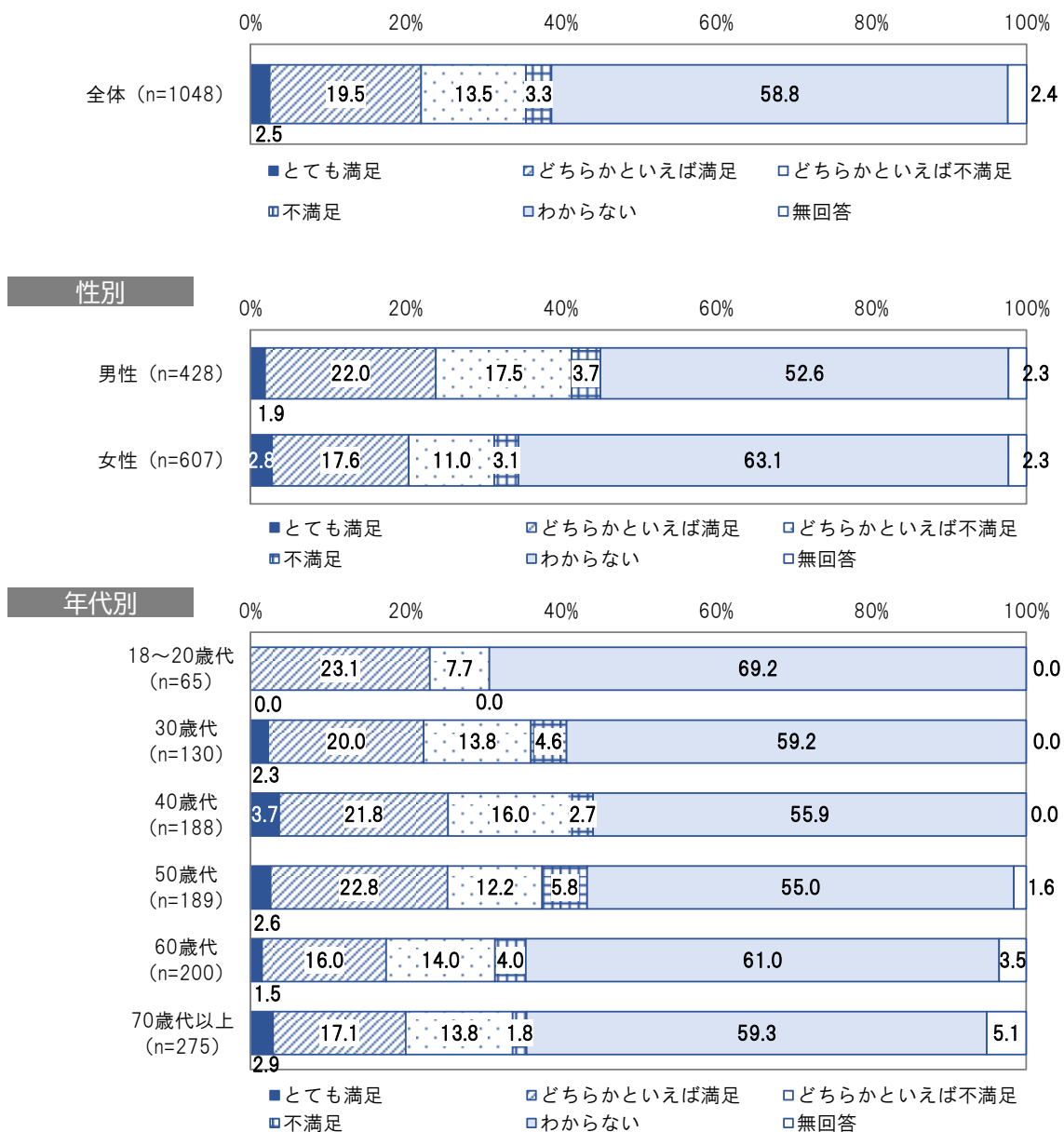


(19) スポーツ振興の施策・取組の満足度

スポーツ振興の施策・取組の満足度については、「とても満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』が2割を超え、「どちらかといえば不満足」と「不満足」を合わせた『不満足』を上回っています。

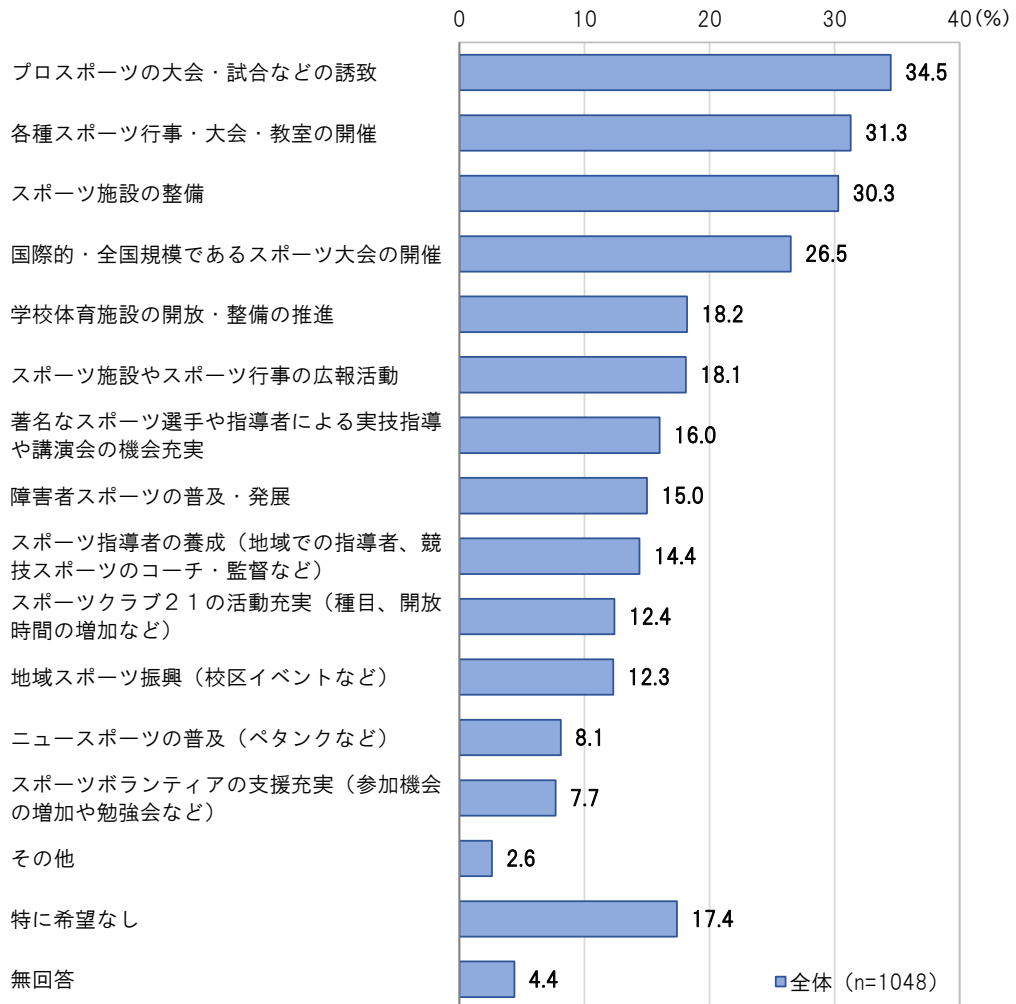
性別で見ると、男性・女性ともに『満足』は2割程度となっているのに対し、『不満足』が男性では2割を超えて、女性に比べてやや高くなっています。

年代別で見ると、ほとんどの年代で『満足』が『不満足』を上回っているものの、60歳代ではほぼ同程度となっています。



(20) スポーツ振興について望むこと ※複数回答可能

スポーツ振興について望むことは、「プロスポーツの大会・試合などの誘致」が最も多く、次いで「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」、「スポーツ施設の整備」、「国際的・全国規模であるスポーツ大会の開催」の順となっています。大きなイベントや大会、試合の開催を望む人が多い結果となっています。



4 本市のスポーツの課題

本市のスポーツを取り巻く環境、第1期計画の振り返り、及びアンケート調査の結果を踏まえると、本市のスポーツにおける主な課題として以下の4点があげられます。

(1) 運動・スポーツに対する関心の喚起

運動・スポーツの実施頻度のアンケート調査結果では、週1回以上の実施率は約半数を占め、前回調査より増加していますが、国の第3期計画の目標である70%を大きく下回っています。

特に、30歳代では体力に「自信がない」と回答した人が4割、運動を全くしない人が3割以上を占めており、働き盛りの年齢層での運動・スポーツへのかかわりが少ない結果となっています。

小・中学生の状況をみると、令和5年度（2023年度）の新体力テストでは、すべての項目で全国及び県平均と同等か下回る傾向となっており、子どもの体力低下が顕著な結果となっています。

子どもの頃から運動・スポーツに親しむ習慣を身に付けるとともに、勤労世代や子育て世代など忙しい年齢層においても、それぞれのライフスタイルに合わせた形で運動・スポーツに継続して参加できる機会を充実させていく必要があります。また、「運動・スポーツに関心のない市民」に対しては、健康づくりや仲間づくりなど、競技だけではないアプローチでスポーツへの参加を促していくことが重要です。

スポーツ環境に対する評価において、「わからない」と回答した人が多くを占めていることは、運動・スポーツに関する本市の取組の認知度の低さによるものと考えられるため、本市の取組に関する情報発信の充実を図る必要があります。

(2) 運動・スポーツの“実践”につなげる人材の確保・育成

運動・スポーツに関わるボランティア活動をしたことがある人は、1割程度となっているものの、機会があれば今後したいと回答した人は2割近くを占めています。関心があるにもかかわらず活動できていない人が一定数みられるため、ボランティアに関心がある人が参加しやすい環境を整備していく必要があります。

また、中学校部活動の指導者としての活動意向については、時間の都合や条件次第では活動してもよいという人を合わせた活動意向者は約2割を占めています。指導者として活動するための資格を持っている人は全体の3%程度となっているものの、市民全体で考えると相当数の有資格者が存在することが推測されます。競技スポーツ等の指導者や、競技者の安全・健康管理などをメディカル・コンディショニング面で支えるスタッフ等、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材を確保・育成していくことが必要です。

近年、スポーツ指導者によるハラスメントやアスリート等による違法薬物の摂取などが大きな問題となっています。このような事態を未然に防ぐためには、地域スポーツ団体や競技団体等と連携しながら、スポーツ関係者のコンプライアンス違反やハラスメント等の根絶を目指して、スポーツ・インテグリティの啓発に努めていく必要があります。

(3) 運動・スポーツ“実践”につなげる環境の充実

運動・スポーツの実施頻度のアンケート調査結果では、市民の約4人に1人が「まったくしない」と回答しています。また、前回調査と比べると、1人や家族・友人等と運動する人が増えており、自宅周辺や身近な施設で運動・スポーツを実施する人が増加しています。一方、いつでも誰でもスポーツに親しむことができるスポーツ環境に関する評価においては、『整っていないと思う』が『整っていると思う』を上回る結果となっています。

手柄山新スポーツ施設に期待することとしては、トップスポーツを身近に観戦できることへの期待と、誰もが使いやすいユニバーサルデザインが望まれています。障害者スポーツの普及・振興のために必要なことにおいても「施設の充実」が最も高くなっています。

このようなことから、身近なところで誰もがスポーツを楽しめる環境づくりをするとともに、トップレベルのスポーツを開催できる環境を整備していく必要があります。合わせて、施設・設備を含めた運動・スポーツ環境についての情報発信に取り組んでいく必要があります。

(4) スポーツを活用した本市の魅力の向上

スポーツ振興について望むことのアンケート調査結果では、トップスポーツの大会・試合などの誘致や、各種スポーツイベント・大会・教室の開催、国際的・全国規模のスポーツの開催を望む人が多い結果となっています。

大規模なスポーツ大会等が開催されることにより、市民がスポーツへの関心を高め、スポーツ実施率の向上につながるとともに、市外から選手や観客等呼び込むことで、交流人口の拡大、地域経済の活性化につながります。

また、近年では、世界中でeスポーツの大会が開かれるなどeスポーツ市場が成長しています。アンケート調査においても、若い世代での認知度は高く、eスポーツの大会やイベント開催による地域活性化などが期待されています。

運動・スポーツ関係団体だけでなく、市内の企業・事業所や地域等、様々な団体と連携し、地域の賑わいを創出し、本市の魅力を向上させる必要があります。